

## 議事要旨

H30 年度 第 2 回千葉県移動性向上プロジェクト委員会

開催日時：平成 31 年 3 月 22 日（金） 10:30～11:30

開催場所：千葉国道事務所 202 会議室

委員会出席	千葉工業大学 創造工学部 教授	赤羽 弘和（委員長）
	千葉県警察本部 交通部 交通総務課 調査官	足澤 知之（代理出席）
	千葉県警察本部 交通部 交通規制課 課長補佐	高津 功（代理出席）
	一般社団法人 千葉県商工会議所連合会 事務局長	梶村 一郎
	一般社団法人 千葉県トラック協会 専務理事	高安 茂（欠席）
	一般社団法人 千葉県バス協会 事務局長	田中 徹（代理出席）
	株式会社 千葉日報社 クロスメディア局長	松本 祥彦（欠席）
	公益社団法人 千葉県観光物産協会 専務理事	椎名 誠
	東日本高速道路 株式会社 千葉管理事務所 所長	川田 敏
	東日本高速道路 株式会社 市原管理事務所 所長	鎌田 文幸
	東日本高速道路 株式会社 千葉工事事務所 所長	木曾 伸一
	千葉市 建設局 道路部 道路計画課 課長	中村 浩一（代理出席）
	千葉市 消防局 警防部 救急課 課長	中村 昭夫（代理出席）
	千葉県 県土整備部 道路整備課 課長	相澤 忠利
	千葉県 県土整備部 道路計画課 課長	菰田 直典
	国土交通省 関東運輸局 千葉運輸支局 首席運輸企画専門官	宮澤 豊（代理出席）
	国土交通省 関東地方整備局 首都国道事務所 副所長	森 勝利（代理出席）
	国土交通省 関東地方整備局 千葉国道事務所 所長	八尾 光洋

### ■ 「3. 前回委員会での主な指摘事項とその対応」 (p4～13)

#### ○ 評価区間長の感度分析 (p5～7)

- ・ 評価区間長は、現在と同様に交差点直近の DRM1 リンクを基本とするが、対象となる DRM リンクが極端に短く、信号待ちの影響が過大評価される恐れのある箇所では、複数の DRM リンクを評価対象とするなど実態に即して柔軟に対応すべき。

#### ○ 国道 357 号若松交差点の渋滞状況 (p8～9)

- ・ 対策イメージ (案) (p9) で示しているように、道路構造と信号制御の対策を組み合わせる事で、高い効果を発揮できるとの意見があった。
- ・ 左折車線新設は、交差点の処理能力向上に繋がる事から、効果的な対策であるとの意見があった。
- ・ 左折フリー化は、左折後の本線合流時に事故発生が懸念されるとの意見があった。
- ・ 千葉船橋海浜線の右折車線運用見直しは、見直しによって不利益を被る道路利用者に対して、改善効果をしっかり示す必要があるとの意見があった。
- ・ 本委員会は、個別交差点の対策を議論する場ではないため、今後は各事業者間で検討を進めるとともに、適宜、本委員会で状況報告を行うこと。

#### ○ 3 指標に該当しない未対策箇所の改善要因分析 (p10～13)

- ・ 未対策箇所の改善要因が明らかになった事で、現在のモニタリング指標で評価する妥当性を検証できた。今後は、明らかにモニタリング結果が実情と異なる場合には要因分析を実施すべき。

### ■ 「4. 対策実施箇所の効果確認」 (p14～20)

#### ○ 国道 16 号勝田台団地入口交差点の効果確認 (p14～15)

- ・ 信号制御の情報を記載すべきとの意見があった。

○ 外環（三郷南 IC～高谷 JCT）開通後の整備効果（p16～20）

- ・ 外環及び国道 298 号の開通で幹線道路の交通の流れが改善され、生活道路へ流入する車両が減少している事から、安全性向上効果は大きいとの意見があった。

■ その他

- 次回委員会で穴川インターにおける付加車線設置効果を NEXCO から報告してほしいとの意見があった。

以上